

《労災診療費レセプト審査事務の業務改善に関する論点出し》

平成24年12月21日

公認会計士 竹内啓博

1. 審査の手法（システムの活用）

〔課題（レベル1）〕

- 現行の審査点検手法の見直しにより効率化の余地はないか？
- 審査担当職員又は審査委員の業務効率化を図る手法改善として何が考えられるか？
- 一人当たりの審査件数を更に向上させる手法はあるか？

〔考えられる解決策〕

- 審査業務手法の見直し
- 審査のシステム化（電子レセプトの導入促進）
- 専門性を高めることによる一人当たり処理能力の向上

〔課題（レベル2）〕

- 電子レセプトの導入コスト（年間5億円には開発費は含まれるのか？）と費用削減効果の試算（年間22,558日分の非常勤職員業務処理短縮は金額換算するといくらか？）
- 審査担当職員の専門性アップの方法は何か？⇒「3. 審査の精度」へ

2. 審査の範囲（療養の費用の取扱い）

- 事務局の論点出し以外に特になし

3. 審査の精度（審査担当職員の専門性確保）

〔課題（レベル1）〕

- 一人当たりの審査能力アップの方法は専門性向上以外にないか？
- 専門性向上の方法は研修の効果的な実施しかないのか？
- 審査担当者の継続性を確保できるか？

〔考えられる解決策〕

- 担当者の異動が頻繁であれば定着させれば処理能力は向上する
- 研修の成果を測定し、効果的でないと判断されるのであれば実施方法を改善する

〔課題（レベル2）〕

- 担当者の継続性を確保する人事方針は実行可能なのか？
- 研修成果の認定制度を導入してはどうか？

4. その他（指定医療機関、審査事務室のあり方）

- 事務局の論点出し以外に特になし

以 上